

課題

明治維新のころの埼玉県のようにを知ろう。



東京名勝銀座之通煉化石商家之図

(小室家6373-16)

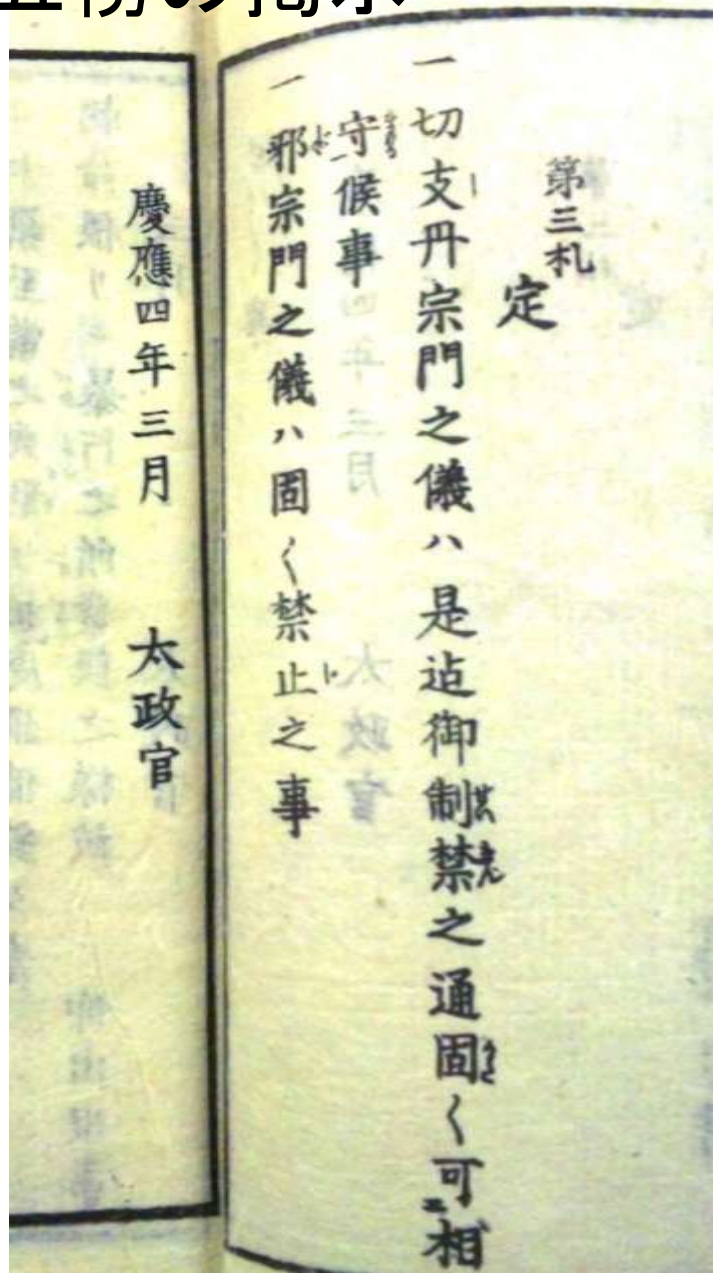
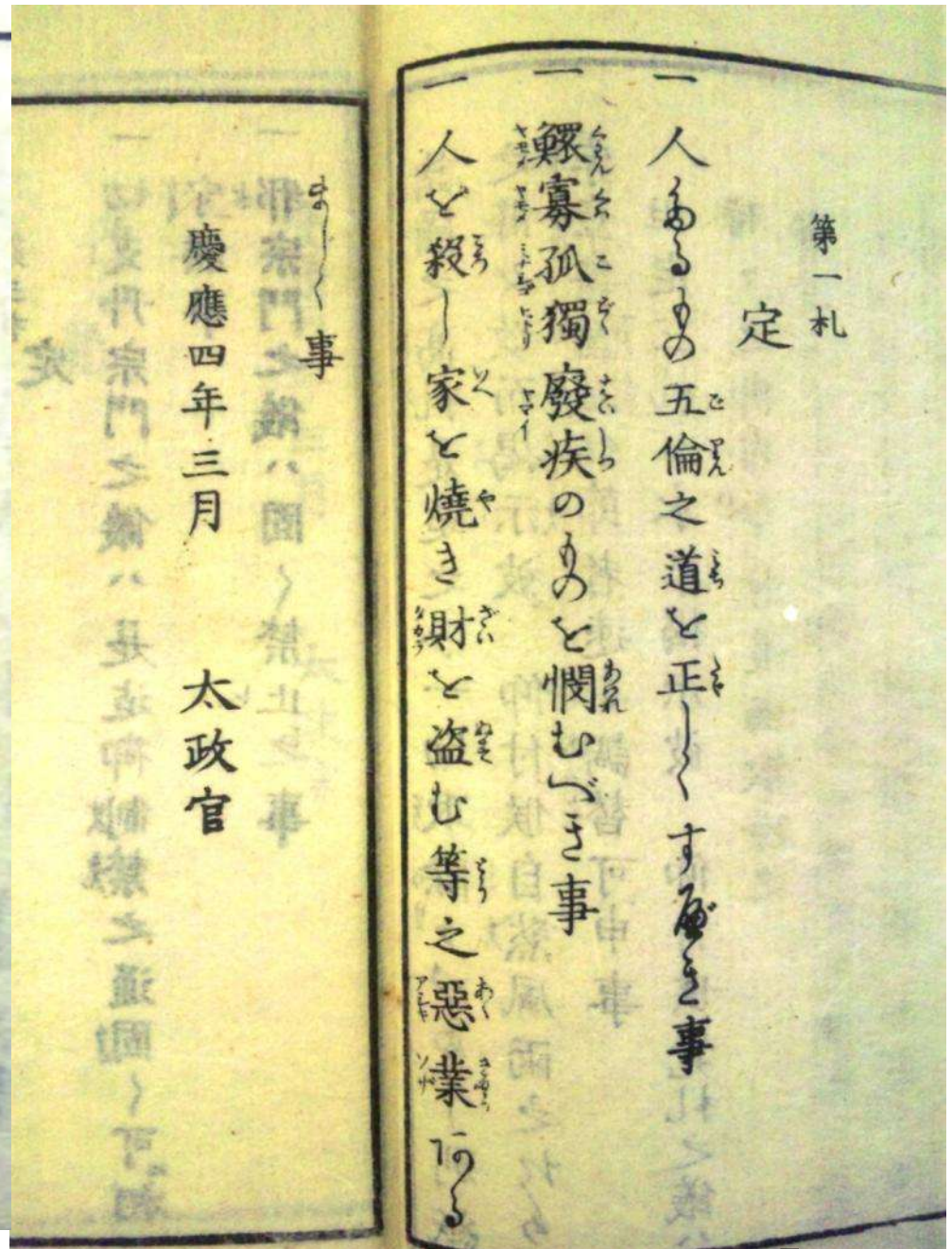
五力条の御誓文

御誓文之御寫

- 一 廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシ
- 一 上下心ヲ一ニシテ盛ニ經論ヲ行フベシ
- 一 官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ゲ人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス
- 一 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ
- 一 智識ヲ世界ニ求メ大ニ

皇基ヲ振起スベシ

五榜の掲示



五榜の掲示



太政官日誌明治四年第四十五号

自七月十四日
至十七日

○十四日 壬寅

詔書寫

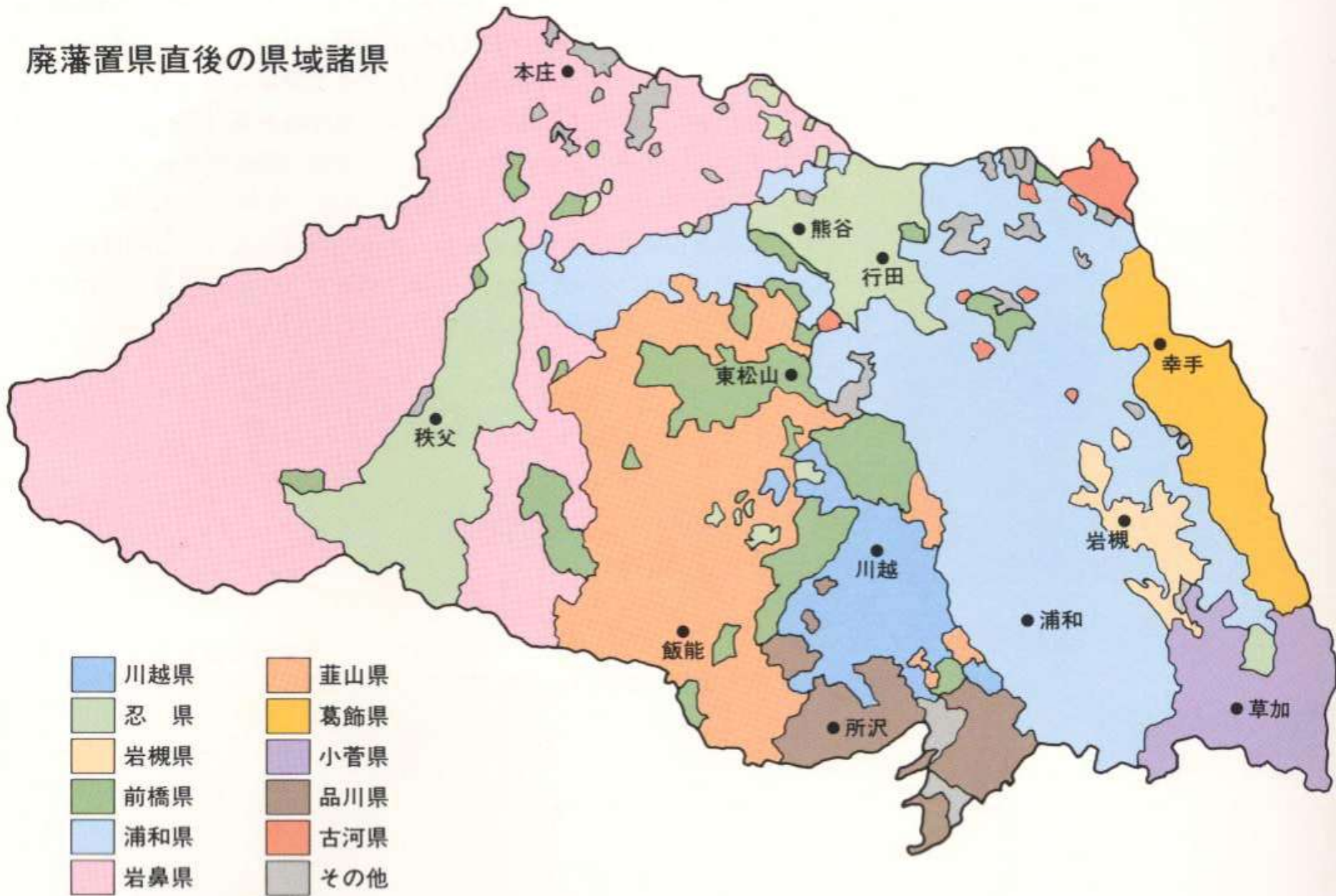
朕惟フニ更始ノ時ニ際シ内以テ億兆ヲ保安
シ外以テ萬國ト對峙セント欲セハ宜ク名實
相副ヒ政令一ニ帰セシムヘシ朕曩ニ諸藩版
籍奉還ノ議ヲ聽納シ新ニ知藩事ヲ命シ各其
職ヲ奉セシム然ルニ數百年日襲ノ久キ或ハ
其名アリテ其實舉ラサル者アリ何ヲ以テ億
兆ヲ保安シ萬國ト對峙スルヲ得ンヤ朕深ク
之ヲ慨ス仍テ今更ニ藩ヲ廢シ縣ト為ス是務
テ冗ヲ去リ簡ニ就キ有名無實ノ弊ヲ除キ政
令多岐ノ憂無ラシメントス汝群臣其レ朕カ
意ヲ體セヨ

鹿兒島山口佐賀高知四藩ノ知事ヘ

勅語寫

汝等曩ニ大義ノ不明ヲ慨キ名分ノ不心ヲ憂

廃藩置県直後の県域諸県



(新編埼玉県史通史編5より)

埼玉県入間県の設置布告

○辛未十一月十四日

今般関八州羣馬縣ヲ除クノ外并ニ伊豆國從來ノ府縣被突更ニ左之通府縣被置候事

縣歷岩

埼玉郡 葛飾郡内 足立郡内

縣
靈
川
越

橫見郡
入間郡
秩父郡
男衾郡

比企郡 新座郡 那賀郡 兒玉郡

高麗郡
多摩郡内

埼玉県と入間県

(明治4年11月)



展示図録より

3 埼玉県と熊谷県

埼玉県と熊谷県

(明治6年6月)



展示図録より

熊谷県を埼玉県へ合併

太政官日誌明治九年第六十五號

○八月二十一日

(第百拾貳號布告) 輪廓附

筑摩縣始左ノ通廢合并管轄替被 仰付候條此旨布告候事

一筑摩縣ヲ廢シ飛驒國ヲ岐阜縣ヘ合シ信濃國ノ内ヲ長野縣ヘ合併

一熊谷縣管轄武藏國ノ内ヲ埼玉縣ヘ合シ橡木縣管轄上野國山田新

田邑樂ノ三郡ヲ熊谷縣ヘ合シ熊谷縣廳ヲ上野國高崎ニ移シ群馬

縣ト改稱

一濱松縣ヲ廢シ静岡縣ヘ合併

一若松磐前兩縣ヲ廢シ福島縣ヘ合併磐城國亘理伊具蒔田ノ三郡ヲ

宮城縣ヘ合併

埼玉県

(明治9年8月)



展示図録より

埼玉県域の変遷

明治4年11月

入間県（川越）・埼玉県（岩槻→浦和）

明治6年6月

熊谷県（熊谷）・埼玉県（浦和）

明治9年8月

埼玉県（浦和）

明治23年9月25日の勅令

→正式に浦和町が県庁所在地



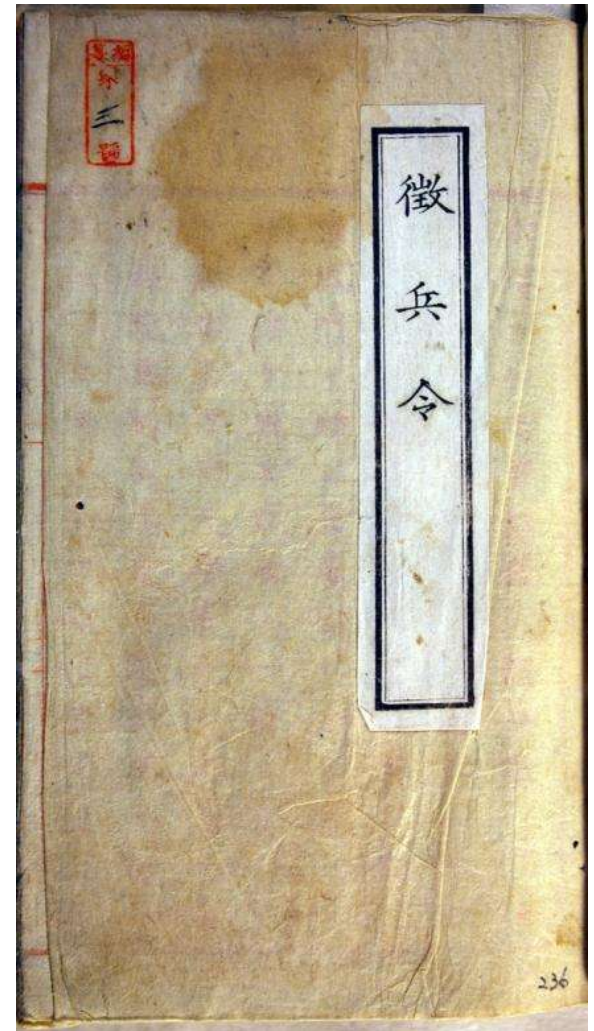
明治政府が目指した国づくり

- 工業をさかんにする。
- 強い軍隊を持つ。
- 国の収入を安定させる。



資料を見よう。

徵兵令



明35の1-2-1

徵兵編成并概則

徵兵ハ國民ノ年甫ノテ二十歳ニ至ル者ヲ徵シ
以テ海陸兩軍ニ充タシムル者ナリ今爰ニ陸軍
ヲ大別シテ三種トナス其一常備軍其二後備軍
其三國民軍是ナリ又其兵丁ノ身材ニ從ヒ五派
ノ兵種ニ區別ス曰砲兵曰騎兵曰歩兵曰工兵曰
輜重兵而シテ各種ノ兵皆各管鎮臺ノ國郡ヨリ
召集シ若干年ノ役ヲ帶ハシメ所管鎮臺ニ脩ヘ
以テ地方ノ守衛ニ充ツ

其一

地租改正

大日本帝國政府			
明治十三年改正 地券 武藏國新座郡志木宿三千七十三番 字大塚 一畑壹段七畝七步 內 拾五步 根除堀 持主 山本重吉 地價金貳拾圓四拾八錢七厘 此百分ノ三金六拾壹錢五厘 明治十年四月 此百分ノ二ヶ半金五拾壹錢貳厘 地租 地租		右檢査之上授與之 明治十三年三月五日 埼玉縣	

学制

第二百四號
 人々自ら其身を立て其産を治め其業
 を昌よして以て其生茂達る也夫ん
 のに他あり身を脩め智を開き才藝
 を長め治めふあり而て其身を脩め
 智を開き才藝を長めるに學はなりき
 れに能ふは是れ學校の設けふ由也ん

學制

大中小學區ノ事

第一章 全國ノ學政ハ之ヲ文部一省ニ統フ

第二章 全國ヲ大分レテ八大區トス之ヲ大學

區ト稱レ毎區大學校一所ヲ置ク

第三章 大學區ノ分別左ノ如シ

第一大區

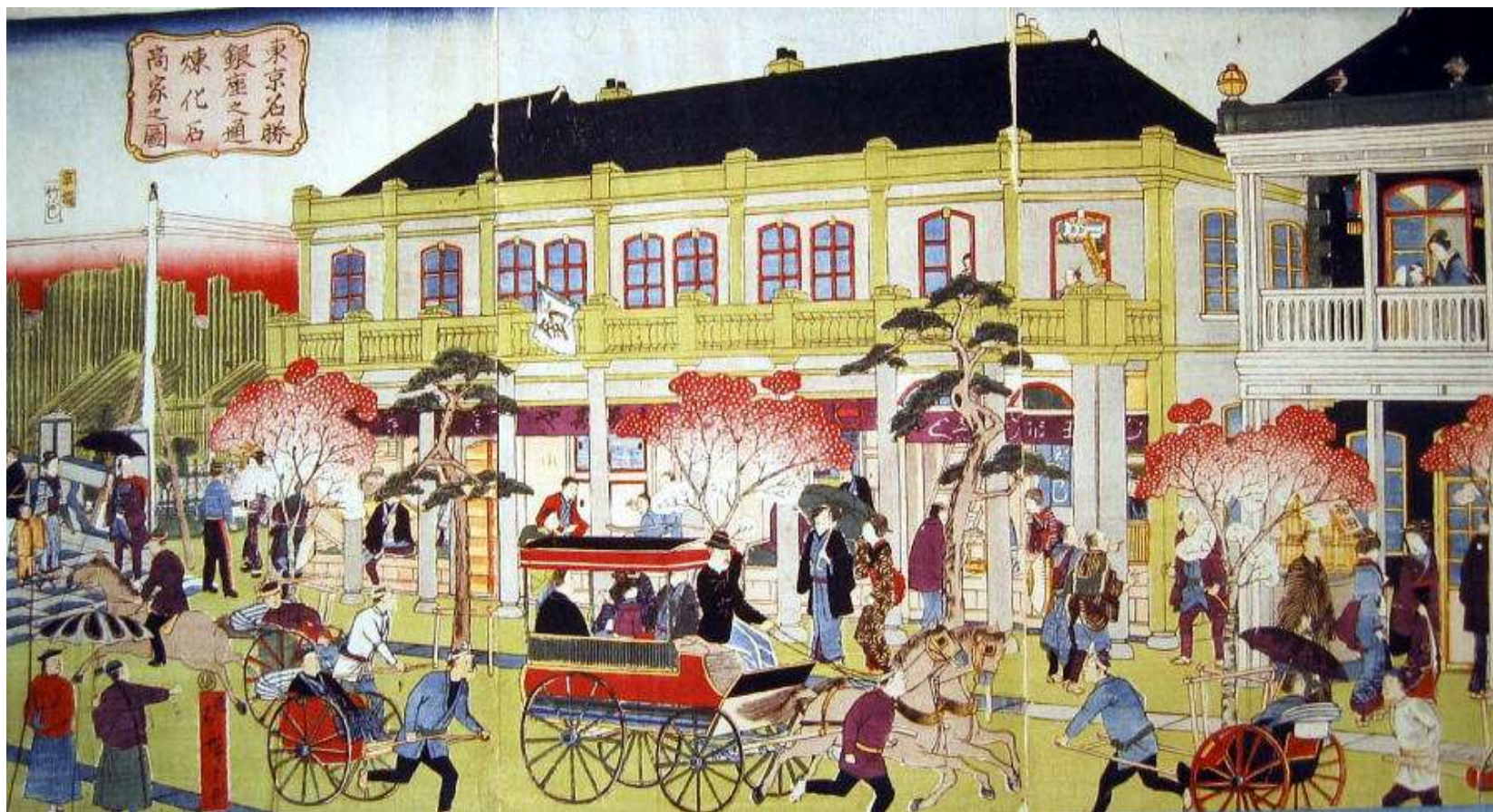
東京府

神奈川縣

埼玉縣

入間縣

學制



埼玉の文明開化を見てみよう



散髪制服略服脱刀、共に自今勝手たるべき事

但し、礼服の節は帯刀いたすべき事
辛未（明治4年）8月 太政官



太政官（国）から出された髪型や服装、脱刀は自由でよいというきまり。ただし、礼服の時は帯刀をしなくてはならない。

散髪制服略服脱刀、共に自今勝手たるべき事

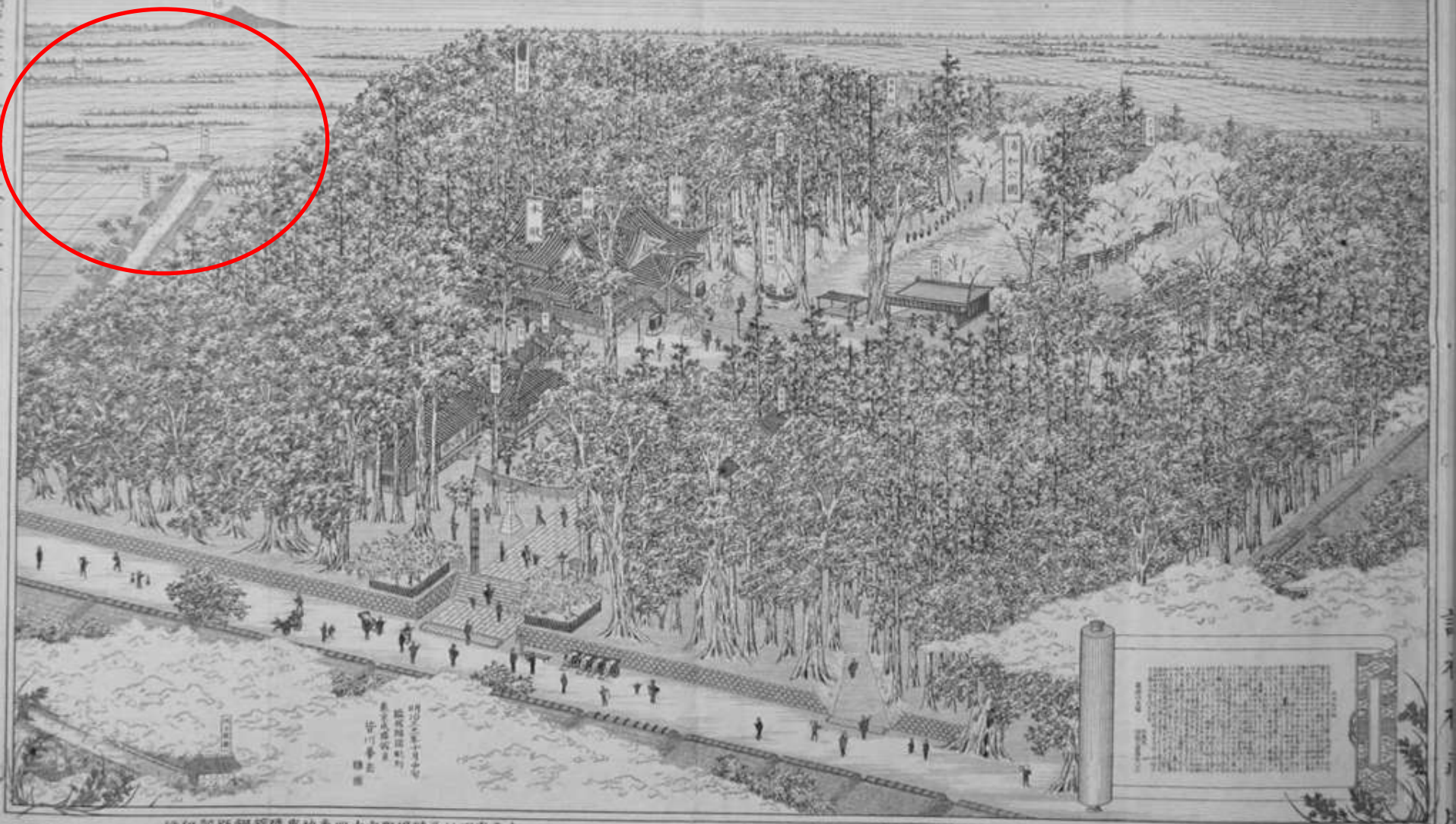
但し、礼服の節は帯刀いたすべき事

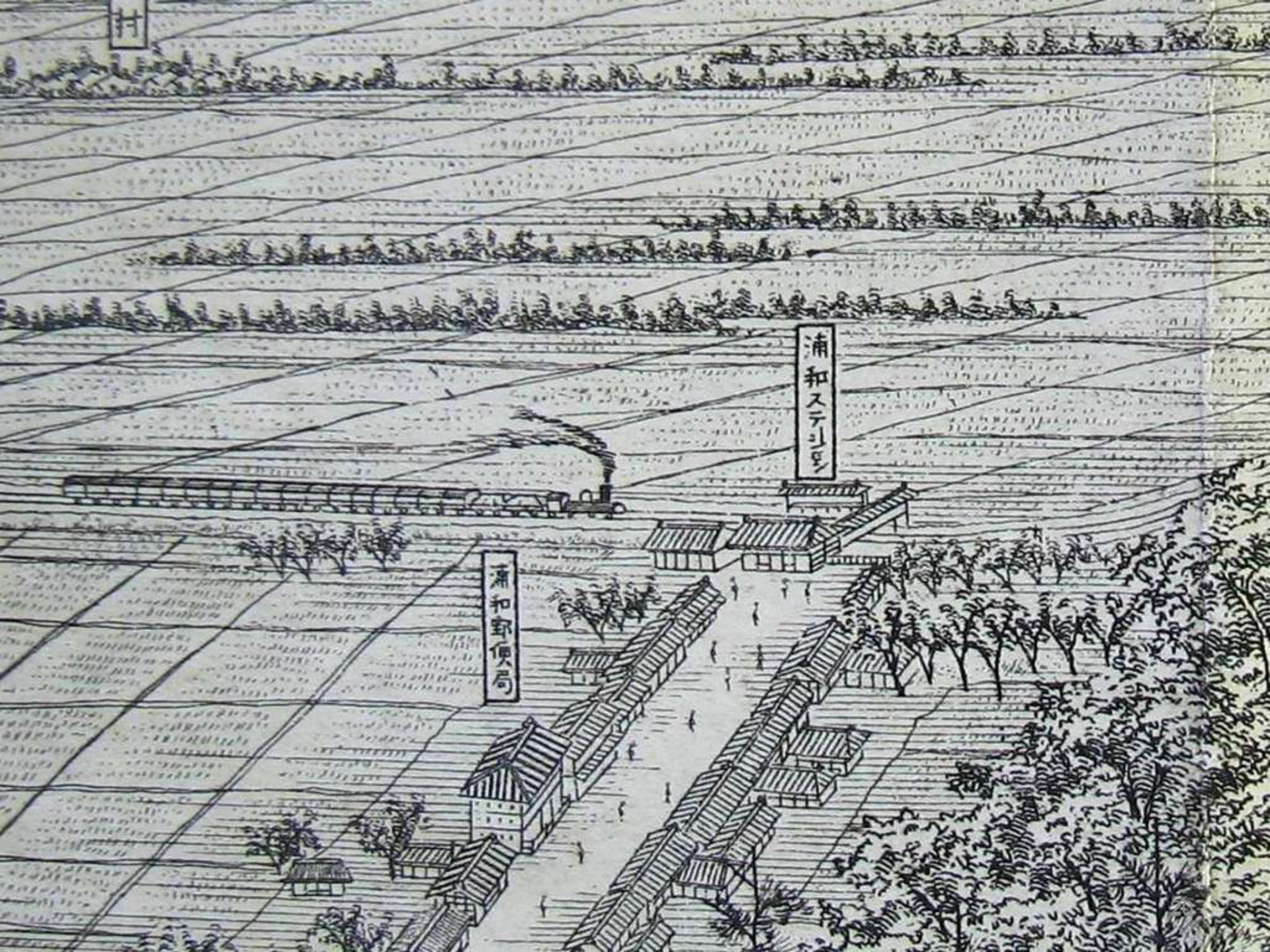
辛未八月

大政官

各縣

延喜式内
調神社境内全圖





浦和ステーション

浦和郵便局

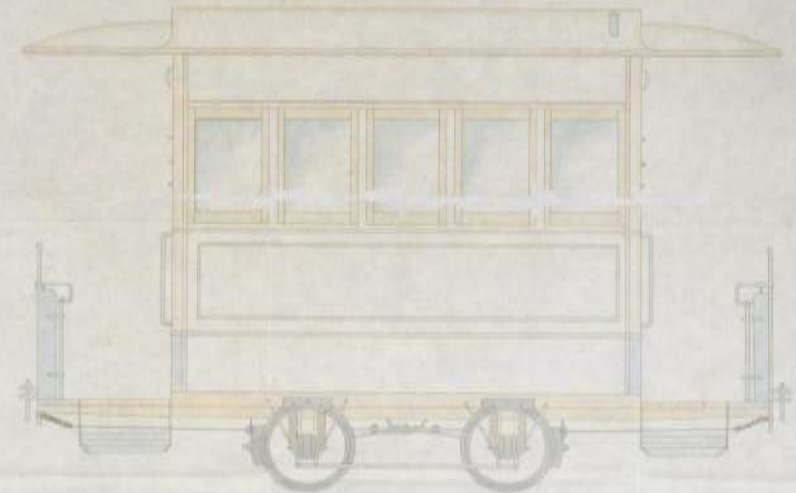
千住馬車鐵道

本
 年
 六
 月
 十
 七
 日
 東
 京
 府
 東
 武
 鐵
 道
 株
 式
 會
 社
 鐵
 道
 馬
 車
 千
 住
 式
 株
 縮
 尺
 拾
 分
 一
 號
 具
 申
 軌
 道
 布
 設
 願
 件
 除
 年
 限
 候
 條
 道
 幅
 制
 限
 共
 除
 年
 限
 裁
 其
 他
 命
 令
 書
 件
 共
 下
 付
 命
 令
 書
 件
 共
 下
 付
 樣
 命
 令
 書
 件
 共
 下
 付
 明
 治
 二
 十
 六
 年
 七
 月
 廿
 九
 日
 內
 務
 省
 指
 令
 甲
 第
 九
 二
 號
 內
 務
 大
 臣
 伯
 爵
 井
 上
 馨

明治23年（明1763-4）

圖臺車社會道鐵車馬住千式株

一之分拾尺縮



（明1763-5）

千住馬車鐵道においては、後年、同地域に東武鐵道が開設されたこともあり、鐵道に先行するものでありました。

明治六年

埼玉新聞

第七號

代價壹錢半

1215
平川
230



管内限新聞活版摺立伺

管内限布告類活字板ヲ以摺調度旨先般
相伺候處當九月御許可相成候以來追々手煩
相立候處現今文物御更張ノ折柄ニ付自今廳中
之事蹟管内人民遍ク知テ可ナルモノハ勿論滿縣
ノ奇事其他巷説ト由氏有益ノ事ハ采心ク活板
以新聞冊子ヲ真シ管内限リ普ク播施シ文運
ノ助ニ仕度此段奉伺食也



明治の改暦の文書

一 今般太陰曆ヲ廢シ太陽曆御頒行相成候ニ付來ル十二月三日ヲ以テ
明治六年一月一日ト被定候事

但新曆鏤板出來次第頒布候事

一 一ヶ年三百六十五日十二月ヶニ分チ四年毎ニ一日ノ閏ヲ置候事

一 時刻之儀是迄晝夜長短ニ隨ヒ十二時ニ相分チ候處今後改テ時辰儀
時刻晝夜平分二十四時ニ定メ子刻ヨリ午刻迄ヲ十二時ニ分チ午前
幾時ト稱シ午刻ヨリ子刻迄ヲ十二時ニ分チ午後幾時ト稱候事

一 時鐘之儀來ル一月一日ヨリ右時刻ニ可改事

但是迄時辰儀時刻ヲ何字ト唱來候處以後何時ト可稱事

一 諸祭典等舊曆月日ヲ新曆月日ニ相當シ施行可致事

明治の改暦の文書



田中家（恭） 1901